



## SDGsの達成に貢献する 名古屋高速道路公社の取り組み



名古屋高速道路公社では、経営理念において、いつでも「安全」「安心」「快適」な道路サービスを提供し、地域社会を支えることを目指すと掲げ、事業を行っています。

SDGsは、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、その目指すところは、名古屋高速道路公社の経営理念と重なり合うものであります。

このことから、名古屋高速道路公社では、経営理念を具体化し実現するため、取り組みに注力している「中期経営計画（2019-2021）」とSDGsの各ゴールとのつながりを明確にし、計画に定める施策を推進することを通じて、SDGsの達成に貢献していきます。

また、社内に「SDGs推進チーム会議」を設置し、SDGsに関する理解・浸透及び意識向上を図るとともに、SDGsの達成に貢献する取り組みを着実に進めます。さらに、これからもSDGsの達成に向けて、積極的に取り組み内容の充実や拡大に努めていきます。

### 経営理念

#### 基本理念

いつでも「安全」「安心」「快適」な道路サービスを提供し、  
地域社会を支える名古屋高速を目指します。

#### 基本方針

- I 都市交通施設としての役割を果たし、元気な「名古屋都市圏」づくりに貢献します。
- II お客様を第一に考え、安全・安心・快適な利用環境を提供します。
- III 効率的で透明な事業運営に努め、創意工夫と自己研鑽で常に進化を続けます。

中期経営計画（2019-2021）

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### ・SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

（外務省HPより）

## 「中期経営計画（2019-2021）」とSDGsとの関連

(1/3)

第1章 さらに使いやすい名古屋高速 ～元気な「名古屋都市圏」づくりへの貢献～					
取組項目	目標 (取組内容)	2021年度※	取組項目に 関連するSDGs		
		1 都市への アクセスの 向上		(1) 都市へのアクセス 向上の取組み 名古屋駅周辺交通基盤整備方針に示された 出入口等の追加・改良等の事業化	3 すべての人に 健康と福祉を
2 ネットワーク 機能の発揮	(2) 高速道路ネット ワークの更なる充実	「南渡り線」の事業化に向けた検討及び 関係機関等の協議・調整	11 住み続けられる まちづくりを	13 気候変動に 具体的な対策を	
	(1) 名古屋西JCT建設 工事の着実な推進	目標1 名古屋西JCT整備完了	2020年度 整備完了		
3 より利用しや すい料金	(1) 新たな料金体系への 取組みの推進	お客様がより利用しやすい料金体系の実現			
第2章 さらに確かな名古屋高速 ～安全・安心の徹底～					
取組項目	目標 (取組内容)	2021年度※	取組項目に 関連するSDGs		
		1 更なる交通 安全対策の 実施		(1) 交通安全対策の 継続的な実施 目標2 総事故件数 880件 目標3 死傷事故率 5.6件/ 億台キロ ※死傷事故率：1万台の車が1万km走行 した場合に起こる死傷事故件数を表す 指標	3 すべての人に 健康と福祉を
2 大規模修繕の 着実な推進	(2) 逆走車や歩行者等の 立入対策の実施	目標4 対策箇所数 15箇所 (累計)			
	(3) 交通安全啓発活動の 実施	各季の交通安全運動を始めとする交通安全 啓発活動の実施			
3 維持管理の 高度化・ 効率化と 着実な点検・ 補修	(1) 大規模修繕計画に 基づく事業の推進	目標5 大規模修繕完了延長 60% (累計) ※大規模修繕完了延長：大規模修繕 対象箇所（37.9km）のうち、床版下面 からの修繕が完了した供用延長の割合			
	(1) 新技術を活用した 維持管理の高度化・ 効率化	ICT等の活用による道路構造物の維持管理の 高度化と効率化			
	(2) 着実な点検の実施と 点検の精度向上	目標6 橋梁の点検率 54% (累計)	3 すべての人に 健康と福祉を	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	11 住み続けられる まちづくりを
	(3) 計画的な維持補修工事 の実施	目標7 道路構造物保全率 90% ※道路構造物保全率：早期に補修を 必要としない橋梁（径間数）の割合 （大規模修繕対象路線を除く）			
	(4) 快適な走行を提供する 舗装の補修	目標8 快適走行路面率 97% ※快適走行路面率：舗装路面延長の うち、高速走行でも快適で安定した 走行が可能となる舗装路面が占める割合			
4 道路法違反 車両に対する 取締・指導 の強化	(5) リフレッシュ工事の 実施	交通規制が必要な作業を集約した「リフレ ッシュ工事」の計画的な実施			
	(1) 取り締まりの強化	目標8-2 愛知県警高速道路交通警察隊との 合同取り締まり回数 6回			
5 南海トラフ 地震を始め とした 自然災害への 対応力向上	(1) 災害時の業務継続に 向けた防災拠点整備の 推進	目標9 受変電施設の津波浸水対策完了 （短期） 2019年度 対策完了済			
	(2) 実践的な訓練による 災害対応力の向上	目標10 整備部社屋の改修 2020年度 改修完了 目標11 防災拠点の電源確保 供用開始 目標12 各種訓練の実施 実施			

※表中に特に記載のあるものを除く

第3章 さらに走りやすい名古屋高速 ～快適さとサービスの向上～				
取組項目		目標 (取組内容)	2021年度※	取組項目に 関連するSDGs
1	継続的な渋滞 対策の推進	(1) 都心環状線の渋滞対策	目標13 都心環状線の渋滞損失時間	
		(2) 小牧北出口、 一宮東出口・一宮 IC連絡路における 渋滞対策	渋滞要因の調査・分析及び関係機関との協議等	
2	交通事故・ 工事に伴う 渋滞の削減	(1) 交通事故処理に伴う 渋滞時間の短縮	目標14 交通事故処理に伴う渋滞時間	68分以内/件
		(2) 工事に伴う渋滞の発生 及び影響の軽減	目標15 工事に伴う渋滞時間	40時間/年
3	雪水対策の 強化	(1) 降雪・積雪時等の通行 確保の強化	監視体制強化による雪水作業への迅速な対応 及び早期の入口閉鎖等	
		(2) 雪水作業の効率化	目標16 雪水作業の効率化の推進	実施
4	道路交通情報 提供の充実	(1) 道路情報板の視認性 向上	目標17 道路情報板の大型マルチカラー化	53% (累計)
		(2) ETC2.0の普及促進	目標18 ETC2.0利用率	25% (累計)
5	お客様との コミュニケーションの 推進	(1) お客様の声の反映	お客様ニーズに基づいたサービスの充実と改善	
		(2) お問い合わせへの 的確な対応	お客様センター等におけるより速やかで適切な 応答	
		(3) 料金所サービスの向上	お客様への接遇の向上と迅速で正確な料金 収受の確保	
		(4) お客様満足度の向上	目標19 総合満足度 ※総合満足度：お客様満足度調査に よる5段階評価の点数	3.80以上
6	自動運転への 対応	(1) 自動運転の 実用化・普及へ の適切な対応	自動運転の技術開発に関する調査研究・協力	

※表中に特に記載のあるものを除く



第4章 社会的責任の遂行				
取組項目		目標 (取組内容)	2021年度※	取組項目に 関連するSDGs
1	工事の品質確保 と安全管理	(1) 施工プロセスの着実な 実施	工事品質を確保するためのPDCAサイクルに 基づいた施工プロセスの着実な実施	
		(2) 品質確保に向けた 契約制度の改善	目標20 入札参加資格の見直し、 低入札時の対応強化実施	実施 2019年度 低入札時の対応 強化実施済
		(3) 工事故防止に 向けた安全管理の 推進	各種安全パトロールの計画的な実施及び 安全管理アドバイザー会議等の実施	
2	環境保全への 取り組み	(1) 道路照明LED化の推進	目標21 道路照明LED化	39% (累計)
		(2) エコドライブ啓発 活動の実施	”環境にやさしい”名古屋高速道路の積極的な 利用及びやさしく静かな運転の心がけ等の 呼びかけ	
3	事業運営の 信頼性向上	(1) コンプライアンス等の 徹底	目標22 コンプライアンス等に関する意識度	100%
		(2) 情報セキュリティ 対策の強化	目標23 情報セキュリティに関する意識度	100%
4	地域社会との 共生	(1) 自治体や大学等への 技術提供・情報発信	社会基盤整備の役割や重要性、技術者としての 心構えなどの伝承	
		(2) ネットクス・プラザを 活用した地域社会との 交流	目標24 ネットクス・プラザ利用団体数	130団体以上
5	積極的な情報 発信	(1) 多様な媒体による 情報発信	ホームページ・SNS・ラジオ等の媒体を効果的に 用いた、名古屋高速に関する様々な情報の提供	
		(2) 設立50周年記念事業 の実施	目標25 50周年史の発刊	発刊

第5章 経営基盤の強化

取組項目		目標 (取組内容)	2021年度※	取組項目に 関連するSDGs
1	～財務基盤 強化・経営 合理化～  コスト削減・ 効率化と 戦略的な 資金調達	(1) 予防保全等による 構造物の長寿命化	ライフサイクルコスト低減による大規模修繕等 の着実な実施及び技術基準の見直し	
		(2) 効率的な維持管理	新技術の積極的な活用による維持管理コスト 増大抑制のための効率的な維持管理の実施	
		(3) 工事関係書類等の削減	目標26 工事関係書類等の削減の実施	実施
		(4) 積算業務の効率化	主要資材の適正単価の採用、積算基準の見直し /新積算システムの構築	
		(5) 光熱費の削減	道路照明及び整備部社屋改修に合わせた事務所 照明のLED化による消費電力量の削減	
		(6) 戦略的な資金調達	目標27 個別投資家訪問数	50件以上
2	～組織基盤 強化～  職員と組織の 能力発揮	(1) 職員の人材育成及び 技術力等の向上	目標28 プロジェクトに関連した資格取得者数	15名以上 (累計)
		(2) プロジェクトの推進を 図るための組織づくり	重点的な人員配置及び能動的・効率的な 組織づくり	
		(3) ワークライフバランス の推進	目標29 年次休暇の平均取得日数	14日
3	～事業推進 基盤強化～ 確実な事業 推進	(1) 重要施策間の連携 強化	事業間調整会議による工程等の共有及び 一体的な調整・課題解決	

※表中に特に記載のあるものを除く